

第20回 松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

〈ターゲット型 高齢者生きがい就労事業の事業者と参加者の皆さまと〉 対話録概要

と き	令和7年11月21日（金） 午前9時30分から午前11時30分まで
と ころ	はたらくらボクサ知（第3老人福祉工場）
出 席 者	参加者 15人、市長ほか関係者 11人 計26人
第 1 部	高齢者生きがい就労事業の事業者の皆さまと意見交換 「高齢者が働くということの重要性、「はたらく」ことへのニーズ、今後の目指すべき姿などについて」
第 2 部	高齢者生きがい就労事業の参加者の皆さまと意見交換 「この事業に参加していると思うこと、この事業に参加する前と後の変化、今後どうしていきたいかなどについて」

※高齢者生きがい就労事業・・・退職後の「無理なく働きたい」「家にいるより働きに出たい」というニーズに対応し、軽作業などの自分に合った仕事内容で働くことができる就労事業

※〈事業者〉・・・高齢者生きがい就労事業の事業者の意見

〈参加者〉・・・高齢者生きがい就労事業の参加者の意見

第1部

【市長のあいさつ】

自分自身が市長になって20回目の車座集会である。車座集会を開催している中で、参加する高齢者から「高齢者が活躍できる場を増やしてほしい」という声を多く聞いている。高齢者の生き方や生活のあり方に向き合って考えていきたいという思いがあり、今回は高齢者の就労に焦点を当てて意見交換を行いたい。

【意見交換】

〈市長〉生きがい就労事業に参加している方々の年齢はどのくらいか。

〈事業者〉平均年齢は75歳くらいである。

〈市長〉高齢者の生きがい就労事業に対するニーズは高いと感じている。また、生きがい就労事業の拠点を福祉施設だけでなく、空き家や商店街などでも展開できればと考えている。

〈事業者〉事業者としても、高齢者の就労はニーズがあると想定し活動の幅を広げている段階である。現時点では高齢者が自発的にやりたいことを実現できる段階には至っておらず、引き続きどういった就労をしたいのか当事者のニーズをしっかりと把握することと、それに対応する就労提供先の発掘を進めていく必要があると考えている。一方で、多くの企業が人手不足に悩んでいる中、企業側が高齢者生きがい就労と協力し、高齢者に軽作業を担ってもらうことで、企業の生産性や社会貢献によるブランディングの向上につながることも考えられる。

〈事業者〉現状の活動はフレイル予防の要素が多く、参加者には事業者が提供する軽作業（ミシン縫いや紐通し作業等）に取り組んでもらっている。今後、商品開発や高齢者が持っているノウハウ、経験を

活かすことができるような仕事を提供できれば、参加者はさらに増えるのではないかと考える一方、事業者としても新規の仕事を確保するのはなかなか難しく、高齢者の生きがい就労が社会的に認知されてくると、協力してくれる企業は増えていくものと思われる。人それぞれ価値観は異なるため、多様な働き方を提供できることが望ましい。企業、事業者、高齢者をマッチングさせるアプリやシステムがあれば良いと考えており、高齢者の多様な働き方の実現、企業課題の解決、地域経済の活性化などの好循環を生み出していきたい。

〈市長〉高齢者生きがい就労事業を福祉サービスの一部として進めるのか、経済的な分野として進めるのかについて、どのように考えているか。尼崎市では現在、福祉部が高齢者生きがい就労事業をサポートしているが、経済部においてもどのようなサポートができるのか、互いに問題意識を持って進めていきたい。

〈事業者〉現段階では、両方の方向性で進めていきたいと思っている。高齢者の介護予防という視点から見ると、福祉的な部分がベースであるが、労働という視点を加えることで、経済的な部分として最低賃金以上の給料を得ながら働ける環境を作ることができると考えている。これにより、福祉と経済の2階層の構図ができ、1階部分（福祉）に来ていた参加者の中から何割かが2階部分（経済）へ広がっていくことができる。

〈市長〉高齢者にとって負担になり過ぎない就労環境を整えることも大事であり、また一定の収入を望む人にはそれに見合った仕事を提供できることなど、様々な価値観に対応できることが望ましい。いずれにしても様々な資源を上手に活用できれば、地域経済の活性化や福祉の増進にもつながると考える。

〈事業者〉縦の階層にもグラデーションが存在すると考えている。グラデーションが共存できるか、または、1階部分（福祉）と2階部分（経済）で異なる見せ方をしなければならない場合があることが今後の課題となってくる。

〈事業者〉参加者は、「いつ来ても良いし、いつ帰っても良い」という気楽さを重視しているため、事業者が企業と契約する中で、品質や納期に関する責任を参加者に負わず、事業者がその責任を負うことでリスクをどのように軽減できるかが重要なポイントである。

〈事業者〉今後、市内の福祉的就労事業所などとも連携を深めていくことが重要だと考えている。お互いに仕事がない時や困ったときに助け合える体制を整えることで、より良い状況を作れるのではないかと考えている。

〈事業者〉福祉的な観点から見ると、参加者が活動に来ることで、少しの変化を早期に感知することができる。間違いが増えてきた場合、認知症の評価テストを行うのではなく、活動の中から程度を把握し、関係機関につなぐことができる。

第2部

【市長のあいさつ】

先ほど、はたらくラボを見学し、皆さんが行っている作業を私も体験させてもらった。私自身、退職後の過ごし方には様々な選択肢があると考えている。また、市としても応援できる部分があるのではないかと考えている。例えば、働く機会を提供したり、高齢者が地域で活躍できる場を作ったりすることが考えられる。本日は、充実した過ごし方を実現するために、実際に参加している方々の声をぜひ聞かせてもらいたい。

【意見交換】参加者の意見をまとめています。

- ・皆で楽しく過ごしており、賑やかな雰囲気がある。
- ・市報や友人から教えてもらってこの場所を知り、申込を行い、週5日通っている。
- ・ここに来ることで、生活リズムが整い、元気を保つことができている。
- ・仕事の内容というよりは、参加者同士のコミュニケーションが楽しく、癒しの場となっている。
- ・チームオレンジ尼崎として、認知症サポーターが見守る中で、認知症患者が活動をすることができる。家族同士と一緒に参加することで、情報交換や息抜き場になっている。
- ・認知症サポーターとしてのやりがいを感じており、このような場が更に増えることを願っている。
- ・参加者が高齢であるため、事業所へのアクセスを良くしてほしい。また、初めて通う人にとっては場所が探しにくい場所にあるため改善してほしい。
- ・事業所自体が古いため、設備面の改修をお願いしたい。

【おわりに】

本日、事業者と参加者の皆さんと意見交換することができ嬉しく思う。高齢期に適した働き方や高齢者の活動の場を増やしたいと考えているため、今後の政策に生かせるよう担当者と共に考えていきたい。

以 上